



人 那 物 須

那須高生がつくった

義

ま

鑑

ち

The people of Nasu

人 那
物 須

鑑 ま
ち

The people of Nasu

発刊にあたり

このたび「那須まち人物図鑑」を
発刊するにあたり、これまで

の経緯と御礼を述べさせていただきます
と思います。県内の生徒数の減
少や多様化に適切に対応し、生徒一
人ひとりの能力を最大限に引き出す
多様で柔軟な県立学校づくりを進め
るために那須高校が小規模特例校と
なり2年が経ちます。はやくから那
須町が学校存続の協力を名乗りを上
げていただき、パートナーシップ協
定を締結させていただいたのが平成
29年3月でした。これまで多くの教
育活動への支援を行っていただい
ており、感謝の言葉は筆舌に尽くし
がたいものがあります。この「那須ま
ち人物図鑑」は、那須高校を励まし、
応援していただいている方々のご紹介

と、本校生徒が将来において「なり
たい自分」を見つけるために身近で
あがれている方々を紹介するという
活動の集大成であります。

まず、ここに至るまでの本校の歴
史を簡単に紹介させていただきます。
創立からの沿革をたどってみると、
本校は昭和24年4月に栃木県立那須
農業高校（現・栃木県立那須拓陽高校）
黒田原分校として設立し、定時制課程
の農業科、農村家庭科（定員20名）で、
開校式を専売所事務室（現：那須町役
場）にて行い、学校の歴史がスタ
トしました。その年の10月に黒田原
小学校内に移転し、昭和25年に当時
の那須村、芦野町、伊王野村、鍋掛
村の組合経営に移管されました。昭
和26年1月の那須村村会にて校舎建
築割当が可決され、9月に現在地に
独立校舎が落成いたしました。当時

教室は4つで、
11月に増築校
舎が落成し学
校の形が段々

と見えてきました。昭和28年には校
旗が制定され、第2校舎も落成しま
した。昭和31年に商業科が設置（定員
20名）され、7月には図書館が完成い
たしました。昭和34年に那須高校と
して独立誓願を県に行い、昭和35年
3月31日をもって黒田原分校が廃校
となり、4月1日に栃木県立那須高
等学校が開校しました。6月2日に独
立記念式典を挙行し、これを創立記
念日と決めました。昭和37年に全日
制課程に変更となり、普通科（100
名）商業科（50名）農業科（30名）と
しました。昭和39年から普通科（150
名）商業科（50名）の学年4学級編成、
昭和49年に普通科を1学級増の4ク
ラス（180名）商業科（45名）1ク



shinichi Usui



今回、栃木県が行った「未来を創る
高校生地域連携・協働推進事業」の活
動を中心として、「総合的な探究の時
間」を使って那須地域で活躍されて
いる多くの方々をご紹介させていた
だきました。本校の一年生全員がイ

スの学年5クラスの学校規模になり
ました。鉄筋の新校舎が落成し、校
庭が整備され格技場もできて黒田原
の町に高校生の声が響き渡り、活気
に満ちあふれた学園ができあがりま
した。部活動に汗を流し、青春を謳
歌する高校生のために那須高校が多
いに躍動した時期でありました。
時を経て令和2年に創立60周年を
迎え、これまで多くの卒業生を輩出
し、各界での活躍を耳にし、これか
らも多方面で社会を支える人材を育
てていければと願っております。

インタビューとなり、多くの子ども
たちに働くことの意義やよろこびを
探ってもらい、将来の夢の形を模索
してもらえればと企画しました。那
須町には大きな夢を持ち、その夢を
現実のものにするために頑張ってい
る多くのすてきな大人の方がいらっ
しゃいます。生徒たちが初対面の方々
へインタビューをするという試みに
対して、丁寧なご回答と生徒への励
ましの言葉をいただきました。本当
にありがとうございます。皆様の
貴重な時間をつかわせていただいた
成果がこの「那須まち人物図鑑」です。
これまで「那須まち人物図鑑」発刊
にご尽力いただきましたすべての皆
様に感謝申し上げますと共に、今後も、
那須高校の教育活動を見守り、ご指
導をいただきたいと切にお願い申し
上げます。

多くの子どもたちに

働くことの意義やよろこびを知り

将来の夢の形を模索してもらいたい

阿久津陽平さん 旅館山快

阿部寿一さん 栃木県議会議員

新川真己さん 喫茶新川屋

井ノ浦英雄さん ミュージシャン

遠藤聖香さん 染織アーティスト

大瀧剛さん 那須コーヒーバルキ

片岡孝夫さん 那須高原の宿山水閣

木下愛貴さん 一般社団法人nasulab.

早乙女正次さん なすの三線の会

佐藤達夫さん Webディレクター・デザイナー

佐藤光国さん システムエンジニア

真山高士さん 那須高原自然学校

鈴木和也さん 那須どうぶつ王国

高久秀将さん 株式会社高久組

06

08

10

12

14

16

18

20

22

24

26

28

30

32

34

長谷川恭子さん 建築工房槐

36

濱口淳子さん アワーズダイニング

38

浜津伸生さん 那須高原HERBS

40

人見友規さん フィンランドの森

42

平山周一さん 同和自動車

44

平山幸宏さん 那須町町長

46

藤村舞さん モンゴリアビレッジテングル

48

益子悠紀さん 株式会社Drifter

50

松岡美代子さん 松おか

52

山本徹也さん 株式会社ライドエクスペリエンス

54

吉野早美さん 菓子工房くるみの森

56

高校魅力化コーディネーターとして

新川夏澄

57

那須高校の生徒よりみなさまへ「ありがとう」の気持ち



と聞いていますが、そこまで影響が大きいとは知りませんでした。若い世代の人々について、「地元に残ってくれるだけありがたい」とおっしゃっていました。那須のために僕たちができることは何かを考えさせられました。

仕事以外にも高校時代に阿久



津さんが行っていたことについても聞きました。阿久津さんは山岳部に入っており、富士山をはじめ様々な山に登り、自然に親しんでいたそうです。また、阿久津さんの高校では85キロ競歩という行事があったそうです。26時間もかかったそうなので、それだけの距離と時間をかけて歩く行事があることに驚きました。とても過酷で自

分との戦いだったとのことでした。今の阿久津さんを形作る高校時代の経験を聞くことができ、とても刺激になりました。

阿久津さんは年齢が比較的近いこともあり、とても気さくで共通の話題で盛り上がる事ができました。仕事や那須町についても知ることができ、将来のことを考えるきっかけとなりました。私たちも阿久津さんのように、歴史ある那須町に貢献できるような大人になりたいと思います。みなさんもぜひ旅館【山快】にお邪魔して、のんびり温泉に入ってみてください。

(文責：6班)



旅館山快

〒325-0301 栃木県那須郡那須町湯本22番地
TEL / 0287-76-3070

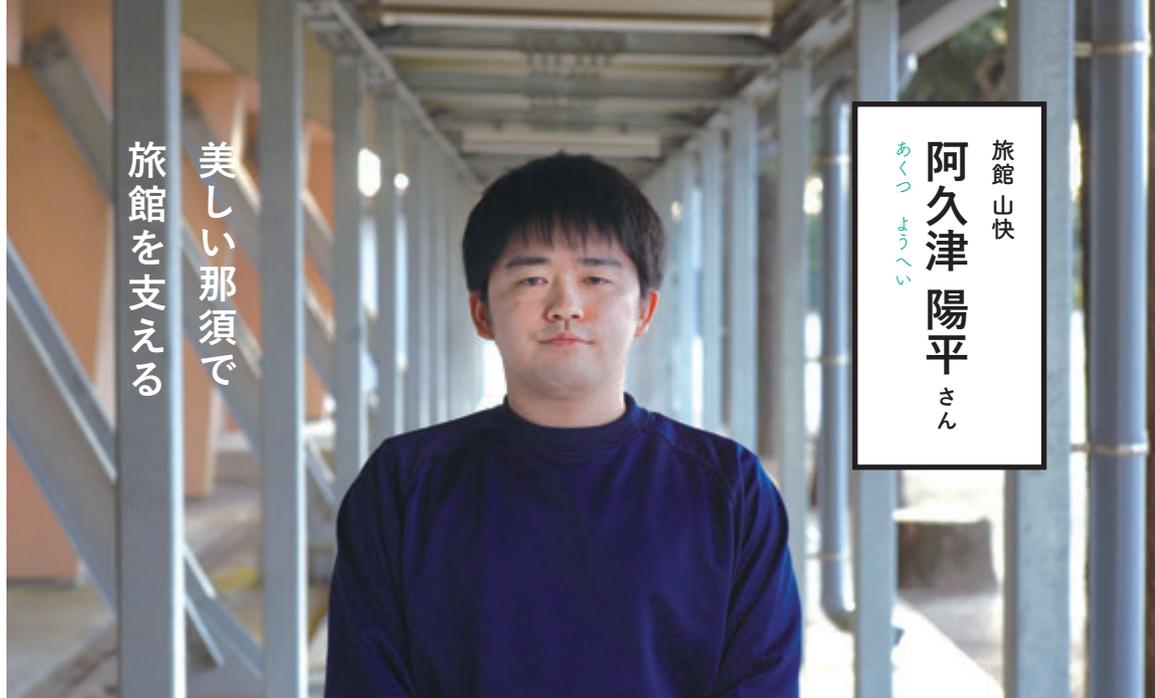
HP nigoriyu-sankai.com



HP

旅館山快
阿久津陽平さん
あくつ ようへい

美しい那須で
旅館を支える



阿久津さんは、ご家族で経営している旅館【山快】の跡継ぎとして働いています。そんな阿久津さんに、仕事のことや、那須町のことを伺いました。

まず、仕事について説明します。フロントで受付を行ったり、館内やそれぞれの部屋や風呂場の清掃をしたり、厨房で料理を作り、泊まりに来たお客様方にふるまったりと、たくさんの仕事があります。他にも、泊まりに来るお客様に対しての仕入れ量など、普段僕たちが見ることのない旅館の裏側のことを教えていただきました。観光業の大変さや魅力が伝わってきました。

次に、那須町の良い点と改善すべき点について聞いてみました。良い点は、観光資源が豊かであることです。例えば、那

須岳の山々や、緑一色の森林、秋の紅葉、天然温泉などがあがりました。改善すべき点と思う点については、後継者不足です。私たちの通う那須高校の周辺でも様々な文化的なものが作られていたのですが、後継者不足で今はもうそのような伝統あるものを作れる人はとても少ないようです。那須町は少子高齢化の影響で様々な分野で後継者不足



栃木県議会議員
阿部 寿一 さん
あべ としかず

みんなの代弁者として 人の役に立つ



那 須高校の卒業生で同窓会長でもある阿部寿一さんは、これまで市議会議員4期、県議会議員4期を務めています。

現在は県議会議長（取材時）という立場で活躍されていますが、その間、地元である那須塩原市サッカー協会の会長をやられているなど、忙しい日々を送っています。普段仕事のない休みの日は、渓流釣りやゴルフを楽しむこともあり、他にも山を散策して那須町の自然を楽しんでいます。そんな、那須高校の卒業生でもある阿部さんについて紹介します。

まず、那須町で過ごしていた高校時代について聞きました。当時の那須町は今よりも自然が多く穏やかで、道行く人も挨拶を交わし合うゆっくりとした時間が流れる町でした。阿部さんは漢

文が大好きで先生の代わりに授業をしたこともあり、剣道部では1日2〜3kgやせるほど熱心に取り組んでいました。生徒会長もしており、この頃から友人からも頼られるリーダーシップあふれる人柄を発揮していました。

高校卒業後、進学をきっかけに東京へ出て、そのまま県外で就職します。県外にいた間に栃木県の良さを再発見したそうです。栃木県に戻ってからも、青年会議所に所属して、青年経営者の友人たちと町づくりのイベントを行っていました。自分の町を好きになってもらうためにも、資金を



集めて花火大会なども実施し、この時の子どもたちの顔を今でも覚えているそうです。

みんなの代弁者になる

仕事について何うと、政治の道に進んだのは36歳の時。周囲の方々からの要望や、高校生の頃の作文に書いた「人の役に立ちたい」という思いを実現させるために市議会議員に立候補したのが始まりです。議員という立場は「みんなの代弁者」であり、みんなの生活の役に立ち、喜んでもらえることが嬉しいそうです。

阿部さんからみる那須町は、活用できる資源がまだまだ

残っていて、特に温泉があるのは大きく、観光資源だけでなく地熱発電への活用もできるのではないかと考えています。また、那須町の課題としては「若者が少ないこと。それは、若者の就職先が少ないことが原因」と捉えており、まだ発信されていない魅力や埋もれている可能性を掘り起こして地域の活力にするために私たち若い世代が頑張っていく必要があると感じました。阿部さんはさらに、「那須町はできる町」と何度も話していて、まだまだ活性化の可能性を秘めているとアドバイスをいただきました。

自慢できる町に

阿部さんはインタビュー中終始にこやかに、話を聞きながら私たちは「いま那須町でできることを探そう」という気持ちになりました。最後に、阿部さんからいただいたメッセージを紹介して終わりたいと思います。『地元を誇りに思っている。みんなにも地元を誇りに思ってもらいたい。誇れるほどの町を好きになってほしい。是非皆さんで那須町を自慢できる町にしてください。』

（文責25班）



阿部としかず 後援会事務所

〒325-0026 栃木県那須塩原市上厚崎452-331

TEL / 0287-63-3028

HP 109nasu.com/abe



HP



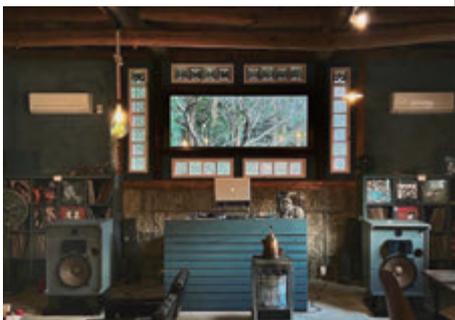
喫茶 新川屋
新川 真己 さん
あらかわ まさき

懐かしくも新しい 自然を感じる喫茶店



の動物や鳥なども数多くいます。自然に囲まれた場所なので、お店では自然の恵みをより一層楽しむことができます。また、お料理だけでなく豆選びにもこだわったコーヒーやデザートなども季節に合わせて違う味を楽しむことができます。

二つ目は、店内の雰囲気です。先述の通り、新川屋は元牛舎だった建物を形を残しつつ作られています。建物の素材には昔牛舎だった頃と変わらない木材



芦野にある喫茶店「新川屋」のオーナーである新川真己さんについてご紹介します。

新川さんは1976年生まれで、高校まで沖縄県で過ごし、その後は福岡や東京で働いていました。結婚を機に、2017年に那須町へ移住し、地域おこし協力隊として働きはじめました。

協力隊としては東京で那須産の農産物のPRをしたり、銃免許を取得して鹿や野鳥などを穫る鳥獣被害対策を行っていたそうです。人里離れた山の中で喫茶店を開業する夢を持っていた新川さんは、2020年に飲食店開業のために芦野にある元牛舎のセルフリノベーションを始めました。原形を残しながら外見と内見を新しくする作業を始めてから約1年後、建物を完成させ2021

と地元の芦野石がそのまま残されていて、コーヒーを飲みながら一息つくのに最適な場所になっています。

新川さんは「新川屋に来るお客さんは自然に囲まれた静かな里山の環境、セルフリノベーションした『懐かしくも新しい』空間で、飲食ができることを楽しみに来ていると思います」とおっしゃっていました。あまりカフェになじみのない私たちも行ってみたいと思うようになりました。



新川さんが那須町のいいと思うところは、都心に近く、高速道路や4号線があるので交通の便が良いところだそうです。課題は若い人が那須町から出て行った後、戻ってくる人が少ないということでした。

沖縄、福岡、東京と様々な場所で活躍されてきた新川さんの経験や知恵は那須にとっても大きな宝であると感じました。そんな新川さんは今後も那須のためにたくさん活躍されることと思います。皆さんも今後の新川さんの活動に注目してみてください。



(文責23班)

年7月に「新川屋」をオープンすることができました。

ここからは「新川屋」について紹介したいと思います。

一つ目は、お店で提供しているメニューについてです。特徴の一つとして、お料理に使う素材は新川屋の敷地内で育てている野菜やお米、山で採れる季節のものを中心に使っているそうです。お店の付近は山に囲まれており、野生



喫茶 新川屋

〒329-3443 栃木県那須郡那須町芦野 2350

営業日：金～月曜日

定休日：火、水、木

(臨時休業などはInstagramでご確認ください)

HP cafe-arakawaya.com

Instagram [cafe_arakawaya](https://www.instagram.com/cafe_arakawaya)



HP

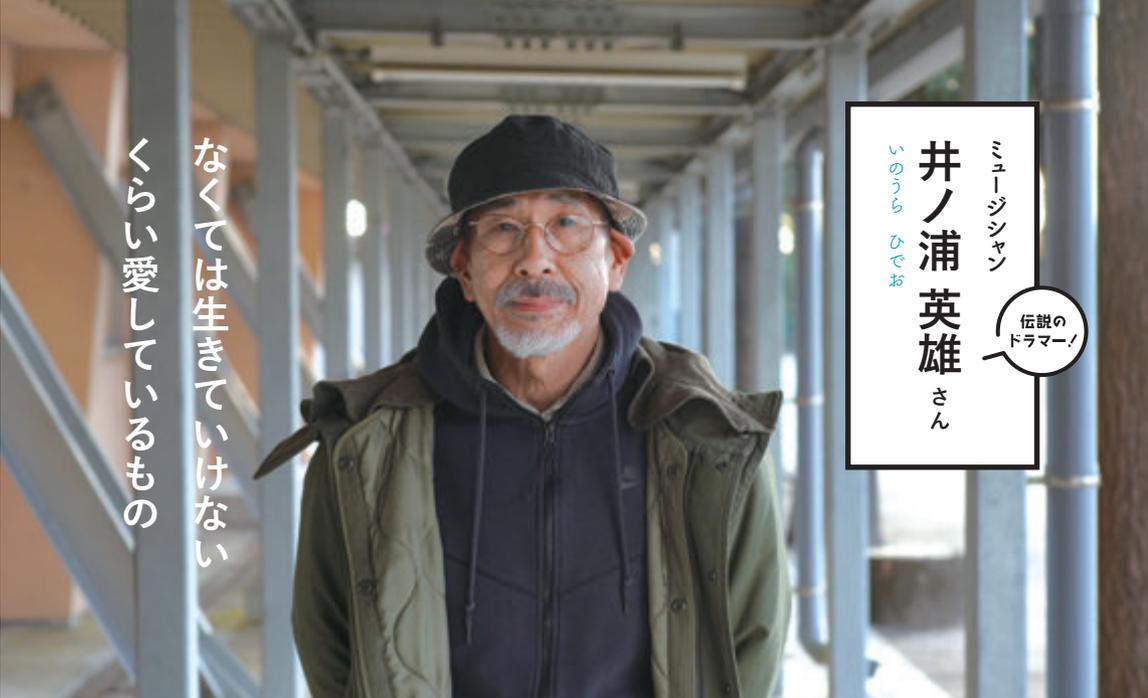


Instagram



ミュージシャン
井ノ浦英雄さん
いのうら ひでお

伝説の
ドラマー!



なくては生きていけない
くらい愛しているもの



プロとして演奏しているときに大切にしていることを聞いてみました。井ノ浦さんは、「メロディーは音楽の大変重要な要素です。しかし、一番大切な部分はリズムである」とおっしゃっていました。プロのドラマーとしてのお言葉でした。

東京でプロとして活躍されていた井ノ浦さんはなぜ那須町で生活することになったのでしょうか。東京と那須を行き来していたら、那須の自然に惹き込まれ気づいた時には那須町が好きになっていったそうです。



那須町の魅力は温泉や自然です。井ノ浦さんは温泉好きで、よく温泉に通っているそうです。地域の人と友達になれる機会も多くあり、自然と遊べるということでした。

森暮らしが奏でるメロディー

井ノ浦さんにとって音楽は「なくては生きていけないくらい、愛しているもの」ということが今回のインタビューを通して分かりました。井ノ浦さんの生活スタイルと音楽がどのように関係しているのか。井ノ浦さんは、森暮らしの生活の中から音楽にヒントを

今回のインタビューをした井ノ浦英雄さんについて様々な質問をしました。

まず、井ノ浦さんの職業についてです。井ノ浦さんの職業はドラマーです。ドラマーであり、那須町で森暮らしの生活をしていきます。今のわたしたちでは決してまねのできない生活スタイルをしています。森暮らしの生活を想像してみると、そう簡単な生活ではないと思います。しかし、井ノ浦さんはこのような生活スタイルで今日もまた一日を送っています。

ドラムを始めたきっかけは、昔、実家の蔵にドラムがあり、そのドラムを触っていたところ、その魅力にはまってしまったとのことでした。

井ノ浦さんの指導の基、私たち

得て、その音楽から森暮らし生活のヒントを得ることができると教えていただきました。

今回のインタビューを通して、井ノ浦さんのドラムの素晴らしさだけでなく、音楽に対する向き合い方や那須での独自の生活への考え方も知ることができました。そのどれもが互いに響きあっていることが実感できました。井ノ浦さんの仕事と生活への向き合い方から、自分たちのこれからの人生のヒントを見出していきたいと思えます。

(文責12班)



もドラムに挑戦してみました。自分たちにもできるだろうと思っていました。いざ、ドラムを叩いてみると、手と足を合わせることは到底できず、自分の意思通りに全く動いてくれません。手足のタイミングを合わせるこれがこれほど難しいとは思っていませんでした。井ノ浦さんの技術の高さを実感できました。



井ノ浦 英雄
@iramainoura



Instagram



まず自分を好きになる

また、遠藤さんは海外でも活躍され、染め物で作った絵で展示会を開催したり、海外展への作品発表をしたりしているそうです。

ご自身の好きなことに一生懸命に取り組まれている遠藤さんは、インタビュー中とても輝いて見えました。高校生の私たちに向けても、好きなことに一生懸命取り組んで欲しい、という話をしてくれました。そのためには、まず自分のことを好きになって欲しい、その自分が何を好きで、何を大事にしたいのかをよく考えて欲しい、



(文責13班)

と話してくれました。また、自然豊かで四季がはっきりしているこの那須はとても魅力ある町であることも気付かせてくれました。

私たちはこの魅力ある那須で学校生活を送れることに感謝し、高校生活の中で自分の好きなことを探したいと思いました。今回遠藤さんから染め物の魅力や、自分の考えを大切にすることなど、貴重なお話をお聞きすることができ、大変勉強になりました。

染織アトリエ&ショップ ブリランテ

(不定休・ご予約制でOPENしています)

〒329-3443 栃木県那須郡那須町高久乙 593-245

TEL / 0287-74-5158

HP kiyokaendo.com

Instagram brillante_kiyoka



HP



Instagram

この世に一つの染め物
好きなことに一生懸命に



染織アーティスト
遠藤 聖香 さん
えんどう きよか

神

奈川県出身の遠藤聖香さんは、2007年に神奈川県から那須に移住し、那須町を拠点としたBrillante(ブリランテ)というお店をオープンしました。

主にスカーフやバックなどを染めて販売しています。どのように色を抽出し染めているのかというと、まず植物を乾燥させ、茹でて煮詰めて、色を出しているそうです。一番好きな植物はハーブとラベンダーで、抽出する色はモスグリーンがお気に入りと同じでした。また、野菜は水分が多く染めるには手間がかかりますが、何色になるか想像するのがとても楽しいそうです。植物や野菜の他にも、動物の糞や抽出し終えたコーヒーのかすなどを使って色を出しています。

この世に一つの染め物

様々な材料から抽出される色は毎回本当にさまざまで、同じ色を作り出すことは難しく、「この世に一つの染め物」を常に作り続けていると聞き、私たちはとても感動しました。そこが遠藤さんの言う染め物の魅力なのだと感じました。遠藤さんは物を染めて販売することがとても楽しく、それを買ってくれる人・使ってくれる人がいるからこそ、やりがいを感じ幸せな気持ちになるそうです。





大瀧さんがコーヒースタンドを始めたきっかけは、チョコレート屋を経営している友人から「コーヒーをやってみたら?」と言われたことで、そこからコーヒーの勉強を始めたそうです。コーヒーは観光客をメインに販売しているため、観光業が盛んであることが那須町の魅力の一つだとおっしゃいました。若い世代に期待することを伺うと、「やりかたによって自分ですべてのいろいろな始めることが

那須コーヒーパルキ
大瀧剛さん
おおたき つよし

コーヒー屋とライターと



大瀧剛さんを紹介するフレーズはたくさんあります。自然に囲まれた那須町を転々とし、コーヒーを売り続ける起業家。那須町取材し、約10名のグループでブログを更新するライター。那須コーヒースタンドパルキの店主・大瀧剛さん。ライターネームはタッキー。

大瀧さんは、さいたま市出身で、6年前にこの那須町に引っ越してきました。そこから那須町地域おこし協力隊に3年間所属し、那須の魅力を外の世界に伝えてきました。

店舗を持たないコーヒー屋

現在、大瀧さんは、那須を転々としながら、人の流れが多いところでたくさんのお客さんにコーヒーを買ってもらい、また場所を

変えてお客さんにコーヒーを販売する、というスタイルでコーヒースタンドを運営しています。



「僕は元々、会社員として働いていたけれど、自営業のコーヒー屋を始めてからとても充実した日々を過ごし、毎日が楽しいと思えるようになった」とうれしそうに語っていました。その反面、「冬の時期になると半年の間はオフシーズンに入ってしまうため収入が一気に減ってしまい、不安定な部分も多いです」ともおっしゃっていて、自営業の良さと大変さの両方を教えてくださいました。



できる。可能性がある。そのためにはまず、自分の好きなことを見つけることが大切」と語ってくださいました。

二足のわらじ

文頭で、大瀧さんのことを「那須町取材し、約10名のグループでブログを更新し続けるライター」とも紹介しました。コーヒースタンドを経営する傍ら、NaSuMoという情報メディアのライターとしても活動しています。NaSuMoは、「あ

なたの知りたい那須がある」をキャッチコピーとして掲げる観光・移住情報メディアです。このメディアに協力しようと思っただけは、子供のころから文章を書くことが好きだったから、と教えてくださいました。NaSuMoの中でもWeb記事を多く執筆していて、そのどれもで那須町の魅力を外の世界に発信しています。

コーヒーの販売と情報メディアの発信という二つの側面から那須の発展を支える、縁の下の力持ちという言葉がよく似合う魅力的な方でした。

(写真:3班)



那須コーヒー パルキ

coffeepalki
coffeepalki.stores.jp



Instagram



SHOP



那須高原の宿 山水閣
 片岡孝夫 さん
 かたおか たかお

人生は学力よりも人間性



大切さを感じました。そして、得意なことを見つけ、自身を褒められるくらいやりきる経験をしたと感じました。また、片岡さんが高校生時代を振り返って後悔していることはズバリ「勉強」だそうです。「勉強ができるから」として給料があがるわけではないが、職業の選択肢が増える」と、「社会人になると、ある程度の基礎的な知識がないと困る」と、「勉強が苦手な人は、コツを知らないだけだから、勉強が得意な人、好きな人にコツを

片岡孝夫さんは、昭和四十七年生まれで、那須町出身です。平成九年に株式会社、山水閣に入社。四年後に代表取締役就任、六代目の宿主となりました。

片岡さんは、【山水閣】と【別邸回】という2つの旅館を経営しています。その上で【大切な方と特別な時を過ごしていただく】というコンセプトで活動しています。旅行、観光、記念日などの大切なひとときを接客や料理などでプロデュースするのが片岡さんのお仕事です。また、片岡さんは椅子が好きで、世界中の椅子を集めているそうです。片岡さんが経営する旅館に立ち寄った際には、椅子に注目するののも一つの楽しみ方だと思っています。

そんな片岡さんにインタビューを



していくなかで私たちが印象に残っていることが2つあります。まず、私たち高校生を含む若い世代に対するメッセージです。「自分に自信を持ち、好きなことをやりきってほしい。すべての夢が叶えられるわけではなく、挫折をすることもあるだろうが、そのときに自分はダメなんだと落ち込まずに、自分はこれだけでよかったんだと褒めてあげてほしい。」とおっしゃっていました。実際、片岡さんは学生時代に好きだったスキーをもっと突き詰めてやりたかったと後悔しているようで、自分の好きなことを突き詰める

教えてもらおうとよい』ことなど、私たちにとって大切な考え方を教えてくださいました。

次に、那須町についてです。片岡さんのお話を聞いているだけで大変見識の広い方だということがわかりましたが、中でも那須の地理や歴史についてとても詳しく、驚きました。そんな片岡さんが思う那須の強みは、東京からのアクセスがとてもいいにも関わらず、自然環境が豊かで野菜がおいしいことだそうです。一方で、広い那須を満喫するには移動が大変であるという課題を感じており、年配の方、足の不自由な方のために移動手段の解決策がないか考えていらっしゃいました。特に、駅からの2次交通の大切さを述べており、私たちリゾート観光科としてもできることがないか考えたいと思っています。

チャンスは平等ではない

インタビューを通して片岡さんは私たちのこれからの努力を励ますような言葉を送り続けて下さいました。「チャンスは皆平等ではない、努力している人にチャンスがくる」「自分はこれしか勉強していないのが、自分より勉強している人は腐るほどいるというのに……と落ち込んではいけません。努力は人と比べてはいけません、去年や昨日の自分と比べるとよい」などという言葉を信じて高校生活をがんばりたいと感じました。

(文責：1班)



那須高原の宿 山水閣
 〒325-0301 栃木県那須郡那須町湯本206
 TEL / 0287-76-3180
 HP sansuikaku.com



HP



NaSuMoとは
 さらに、Webサイト「NaSuMo」について伺いました。木下さんは「NaSuMo」を運営する一般社団法人「nasu-lab」の代表でもいらっしゃいます。このサイトは、那須町在住のライターのみなさんが、身の回りで見つけたリアルな那須の情報を届ける観光・移住情報メディアです。ガイドブックには載ら

ない生活目録の記事や、気になる人へのインタビューなど、リアルな那須の今を楽しんだり驚きとともに届けています。インタビューするにあたり私たちも拝見しましたが、パン屋さん、アイスクリーム屋さんなど、那須町の知らないお店を発見しました。まだまだたくさん魅力が眠っているのでは…とワクワクするサイトとなっています。ほかに、那須町移住定住支援コーディネーターという、那須町への移住希望者をサポートする事業などにも携わっており、那須町の魅力を向上させ、発信して下さっている方だということがわかりました。

楽しいでつながる

そんな木下さんに那須町について伺いました。那須町のいいと



(文責:5班)

ころは、自然環境がとてもよく、首都圏へのアクセスがいいところだそうです。逆に、改善点として、若者が少ないことをあげていらっしゃいました。那須高生を含む、若い世代に期待することは、那須町を盛り上げることに、また、そのためにコミュニケーションを交わす機会を作ることだそうです。「そのなかで見つけた『楽しい』で繋がってほしい」という言葉が、那須町を中心に人と人を繋げている木下さんらしく、とても素敵な考え方だと印象に残っています。

NaSuMo

あなたの知りたい那須がある

栃木県那須の観光・移住メディア
 NaSuMo(ナスモ)

HP nasumo.jp

Instagram nasumo.jp



HP



Instagram



だっぱラジオ

YouTube bit.ly/dapparadio



YouTube

一般社団法人 nasu lab.
木下 愛貴 さん
 きのした あいき

**那須町を中心に
 人と人をつなげる**

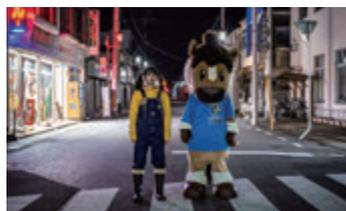


木

下愛貴さんは、1988年に北海道で生まれ、今は那須町に住んでいます。元々東京

やベトナムで仕事をしていました。が、大学時代の友人と音楽活動をしていながら、那須町と出会いました。地元北海道と雰囲気がよく似ていて親近感を感じたことから、『地域おこし協力隊』として那須町にやってきました。木下さんは地域おこし協力隊のほかにも、様々な場面で那須町を盛り上げようと努力なさっています。

初めに仕事の内容について聞きました。まず私たちにも馴染みのある「クロロとゆめな」についてです。「クロロとゆめな」は、農耕馬の那須駒と世話人の女の子をモ



デルにした黒田原のマスケットキャラクターで、木下さんは商工会と連携して2016年から活動をプロデュースされているそうです。



次に「だっぱラジオ」について伺いました。「だっぱラジオ」はYouTubeでライブ配信している番組で、那須地域の魅力発信を目的としたものです。木下さんは毎週木曜日19時30分から「あいきの本日は木曜日」で活躍中です。

そんな早乙女さんに那須について聞きました。那須町の良さは自然と人の歴史だと話してくれました。那須連山の自然の美しさ、その麓に展開している牧場の景観のすばらしさ、別荘地区の多種多様な文化人や芸術家が居住し、人との出会いが面白い。また、芦野地区など古い文化が残っていること、その文



らのこのメッセージは非常に説得力があり、新



(文責:18班)



なすの三線の会

HP nasuno34.exblog.jp



HP

失敗を人生の糧に

化を残して発展させようとしている若い人がいることが那須町の良さのことでした。

ほかの質問のなかで私たちは早乙女さんに「今の若い人たちに期待していること」を聞きました。早乙女さんは、「自分が思ったように、いろいろなことにチャレンジしてほしい」「可能性を見出してほしい」とおっしゃっていました。さらに『チャレンジすると成功することより失敗することが多く、その失敗を人生の糧にすればいい』と教えていただきました。様々な活動をなさっている早乙女さんか

しいことにチャレンジしようとする勇気をもらえました。

また、『那須のことについてたくさん魅力を県内外の人に伝えてほしい』とおっしゃっていました。今回インタビューに臨んだ私たち4名ともリゾート観光科に属しており、那須のことやその発信の仕方などを学ぶ機会に恵まれていると感じています。特に2、3年次には実際に発信する機会もあります。早乙女さんのような方の想いを胸に、3年間の学びを大切にしたいと実感しました。

失敗は人生の糧



なすの三線の会
早乙女 正次 さん
さおとめ しょうじ

早 乙女さんは大学卒業後から技術系の公務員として働いていました。初めは東京で、その後栃木に移り定年まで勤めました。定年を迎えた現在では、なすの三線の会、NPO法人アスク、那須塩原市社会福祉協議会、那須の自然に学ぶ会などで活動やボランティアをしています。

58歳から始めた三線

特に三線の会では、沖縄の伝統ある楽器である三線を弾く活動をしています。三線は58歳の時に知り合いに誘われたのがきっかけで始めたそうです。定年間近になっても新しい趣味ができる積極性がすごいと思いました。イベントや高齢者施設訪問で演奏していましたが、コロナ禍の今はリモートで三線の音を全国に届けています。

三線の会以外にも幅広いボランティア活動をしているそうです。まず、社会福祉協議会として高齢者の方へのお弁当の配達や障害者の方の様々な支援をしています。さらにNPO法人アスクで児童養護施設、高齢者施設、保育所等の第三者評価のお手伝いなどをしています。ほかにも「中間支援」と呼ばれるボランティアの支援をやっているそうです。定年後も様々な形で社会に貢献していることがわかりました。



webディレクター・デザイナー
佐藤 達夫 さん
サトウ タツヲ

時代の最先端を デザインする



佐藤さんに那須町の良いところを聞きました。空気が張り詰めていると感じた東京とは違って、空気がのんびりしていて綺麗で過ごしやすいとのことでした。那須町で好きな場所は、芦野の高瀬からは、芦野の高瀬から葦沢に向かう途中の、山の景色が見られる道だそうです。私たちもぜひ見てみたいです。その代わりに高齢化が進んでいて、若者が住むには少し過ごしにくいというデメリットもあると話していました。

クリエイティブに触れる

佐藤さんが、那須高生を含め、若い世代に期待しているのは、学校の授業でコンピューターの勉



強をしているのであれば、ITだけではなく、ものづくりなどのクリエイティブな世界に触れてほしいということです。また、海外に行ってみてほしいとも感じていて、知らない世界に触れてみる・行ってみる事の大切さを教わりました。

好きなことを仕事に

普段関わることのないお仕事に就いている佐藤さんの話を聞かせていただき、とても勉強になりました。与えられた機器



佐藤

達夫さんは、高校生まで那須町の芦野で育ちました。大学卒業後、Webを学ぶために、デジタルハリウッドに1年通いました。卒業後はIT出版社に就職しWebデザイナーとして働き、制作会社に転職してWebディレクターとして従事しました。その後UTターンして、那



須ゲストハウスSDORZの立ち上げ、芦野聖天花火大会の実行委員などを通して那須の町おこしに尽力。現在は、デザインチームCAZESUNで、ウェブデザイナーやウェブディレクターと呼ばれる仕事をしていきます。これは、Web制作をする際にお客様の意見を取り入れ、プ



程をお聞きした「好きなこと・やりたいことを求めている、好きなことを仕事にしている」という言葉が印象的でした。佐藤さんのように外の世界に積極的に目を向け、様々なものから刺激を受けてカッコいい大人になりたいと思います。



(文責 7班)



ログラムを利用して希望に沿ったWebページを作ったり、写真を撮ってチラシを作ったりする仕事です。工夫しているところは、カメラを使い、ポジションを気にしながら撮影し、ズームは使わず自分自身が撮りたいものに近づいて撮るといふ点です。さらに、撮影の際には自分の足を使うことは重要で、足の位置で撮る場所を決めているそうです。なかでも佐藤さんはコーディング作業が得意だそうで、小さい頃からコンピューターに触れながら生活していて、大学の頃にWebを作成する方法を独学で学んだことが活かされています。

CAZESUN

HP cazesun.jp



HP



システムエンジニア
佐藤 光国 さん
 さとう みつくに

プログラミングで
 世界を便利に！



イトをしていた会社に正社員として採用されました。

電気工事士の免許をもっており、自分の家の電気配線やコンセントの調子が悪いときにはどこが壊れているのかわかるし、それをいじって直すこともできるそうです！電気関係やプログラミングのお仕事をしているだけあって、パソコンはとても

佐藤 さんは、陸前高田で生まれ、東京で育ちました。

高校時代にはバイクに乗っていたり、現在でもバイクに乗ったり車体の整備をしたりするのが趣味だそうです。また、学生時代からコンビニやガソリンスタンドなど様々なアルバイトの経験があり、特にコンビニのバイトは、接客はもちろんですが他にもたくさん業務があり、大変だったと教えてくれました。東京でエンジニアとして働きながら、田舎暮らしを考えていたところに、趣味のバイクレースを通じて友人になった方の誘いがあったことをきっかけにして那須町の芦野に移住しました。

現在の仕事はシステムエンジニアで、主にインターネットに接続される様々な機械の設計・開発をしているそうです。具体例をあげると、スマートスピーカー(Amazon

得意だとおっしゃっていました。

東京と栃木の違い

初めて栃木に来たときは、東京とのギャップを強く感じたそうです。特に那須町は、東京どころか県を中心である宇都宮とも違うところが多いので納得ですね。那須の良い面は、空気がよく、自然が豊かであるということです。一方で、近くにコンビニや飲食店が少なく、気軽に食事や買い物ができないことに不便さを感じていて、那須町にもコンビニや飲食店・居酒屋などが増えると嬉しいとおっしゃっていました。

「プログラミング」と聞くと、高校生の僕たちには難しく、どんな仕事か想像しにくかったのですが、今回のインタビューを通して、仕事の内容を少しだけ理解するこ



oCooなど)を使用する際に必要になる音声認識技術や個体識別技術、通信技術など複数の関連技術をつなぎ合わせて、実際に機能するようにシステムを設計する、というのがシステムエンジニアの仕事です。

小さい頃からゲームを遊ぶためにプログラミングを書いていたのですが、大学では自動車の設計を中心に勉強をされました。その後、幼い頃から趣味の中で身につけたプログラミング知識やサーバー構築の技術を買われ、アルバ



とができました。電子化の進む社会の中で、僕たちも少しずつ身につけていかなければいけない知識や技術であると思いました。

(文責：9班)



オオハンゴンソウの駆除活動や、那須平成の森でのガイドウォークなども真山さんの仕事の一つです。子どもだけでなく、アウトドアの講習やチームビルディング、自然観察会など大人向けの活動も行っているそうです。



自然と共に！

那須高原自然学校
真山 高士 さん
さなやま たかし



いこのことで、特に自然のことについては場所によって生息している生き物が違うということも教えていただきました。自然学校で活動されている真山さんに那須町の自然をほめてもらってなんだが嬉しくなり、またこれからもこの自然は守るべきものだと思えました。

真山さんの今後の活動目標は、地域の発展を目指し、いろいろな子どもたちに自然学校の体験をさせることだそうです。趣味は仕事終わりにお子さんと遊ぶことで、プライベートでもきつとステキなお父さんでいらっ



(文責：11班)



NPO 法人 那須高原自然学校

〒325-0304 栃木県那須郡那須町高久甲5720

TEL / 0287-63-5559

HP go-and-joy.com



HP

真山高士さんは、那須高原自然学校の理事長、那須高原ビジターセンターのセンター長、那須エリア・ネイチャーツーリズム協議会の事務局、だっばらジオのパーソナリティでの魅力発信など、那須に関わる多くの仕事をしています。

まず、真山さんが活動している那須高原自然学校について紹介します。真山さんが自然学校を始めたのは、過去にボイスカウトをしていたことがきっかけです。その時に同じくボイスカウトをしていた先輩に、『自然学校を始めるからやらないか』と誘われたそうです。そうして立ち上げた自然学校は、「自然が教科書」という教育方針です。子どもたちは仲間であり、一緒に自然に対する感謝を学ぶという考えを持っています。小さな子どもたちと対等

に、同じ目線で勉強しようという考えはとても素敵なものだと感じました。自然を体験し自然でしか学べないような活動を体験できるそうで、例えば背の高い木にロープをかけ、登っていくツリークライミングを紹介していただきました。長さが10メートルにも及ぶと聞き、とても驚きました。

さらに、那須高校で実施している



れ以上増えないように対策を
しています。動物園を運営して
いると、例えば餌をあげると
き野性的になる動物がいたり、
一方おとなしくなる動物もいた
り、知らなかった動物の新たな
生態系や仕草を発見できるこ
ともあり鈴木さんはそんな那
須どうぶつ王国で勤務できてよ
かった、と言っていました。



那須の自然や 動物を愛する



那須どうぶつ王国
鈴木和也 さん
すずき かずや

若者に向け、動物が今どんな
危険に晒されているか、動物の
生態を分かりやすくした動画を
アップロードしています。動画自
体とても簡潔にわかりやすくま
とめられているので機会があっ
たら視聴をおすすめします。

考える力を活かす

インタビューの中で、那須高生
を含む若い世代に期待すること
を聞いてみたところ、若い世代
には考える力が備わっているの
で、それを活かして今後の那須
町をもっと賑やかにしてほしい、
またそれは那須町以外にも言
えること

で、現在
日本では
様々な問題
があり、そ
れを解決



那須どうぶつ王国の総支配人

である鈴木和也さんは、過
去、那須に来た時に那須の美しい
自然を知りました。元々東京で
働いていた鈴木さんは二十代で那
須へ移住し、今は那須の自然を皆
に知ってもらおうべく町おこしを積
極的に行いながら、那須どうぶつ
王国の総支配人を務めています。

鈴木さんが先導した町おこしは数
多くあります。自転車のプロチー
ムである那須ブラーゼンの広報マ
ネージャーや、那須の自然をメイ
ンに使用したイベントである「ス
ペクタクル・イン・ザ・ファーム」
ではファッションショーや音楽コン
サート、演劇やダンスを牧場で行
い、町おこしは大成を収めました。
そんな鈴木さんは那須にとってか
けがえのない存在となりました。
また、鈴木さんは那須どうぶつ

王国で地域や世界の問題に全力
で取り組んでいます。例えば、
動物の種をこれ以上減らさないた
めに県外の動物園と協力したり、
それぞれの動物に適した食事を
与え、安全に生活できるような
環境を作ったりしています。

那須どうぶつ王国では動物一匹一
匹の観察をして、毎日健康チェッ
クを欠かさずしています。そのお
かげで動物園では動物たちが快
適に暮らせて、絶滅危惧種がこ



するためには若い人たちの力が
必要になるとおっしゃっていまし
た。鈴木さんは自分のこと以外
にも世界のことや生態系など、
色々な所への配慮や気配りがで
きる、見本のような人でした。

(文責 22 班)



那須どうぶつ王国

〒329-3223 栃木県那須郡那須町大島1042-1

TEL / 0287-77-1110

HP nasu-oukoku.com

Instagram nasu_animal_kingdom



HP



Instagram



株式会社 高久組
高久 秀将 さん
 たかく ひでまさ

ゼロから 形あるモノをつくる



から作り上げたそうです。そして、湯本地区の魅力を発掘することに努めています。

これらのように、高久さんと高久組のみなさんは、那須町をより良くするために町に貢献しています。そんな高久さんに那須町について伺いました。

那須町の良いところは、「良い山があるところ」「自然が豊か」「行事が盛んであるところ」だそうです。毎年、町を彩る那須山などの様々な自然や、季節ごとに行うお祭り、行事にとっても魅力を感じています。そういった背景もあり、私たち那須高生を含む若い世代には、「行事に参加してほしい」「地域に溶け込んで欲しい」と期待しています。地域の活性化を望んでいました。来年には、私たちも

高久秀将さんについて紹介します。高久さんは、家業である那須町に拠点を構える建設会社「高久組」を引き継いで仕事をしています。また、那須の魅力を引き出すために様々な努力をしている方です。

高久組と那須町

まず、高久組のお仕事について伺いました。大きく3つに分けてわかりやすく説明してもらいました。1つ目はゼロからモノを作った完成させることです。完成した時は建設業に携わる者として、とてもやりがいを感じるそうです。

2つ目は那須町のインフラ整備を中心に、災害の対策や復旧にも努めています。インフラとは「インフラストラクチャー」の略で、道路や建物など生活の基盤となる

公共施設のことを指す言葉です。実際、過去には那須高校の管理棟の修理をやっていたことがあったそうです。こういった施工の時には、地震に強い建物づくりや、災害に備えられるかという視点が大切で、高久さんは安全な町づくりを目指しています。



3つ目は、那須の湯本地区に飲食店を開業し、観光客の賑わいの拠点を構築することです。例えば、湯本にある『かぜの杜 まど花』は高久組のみなさんがゼロ



夏祭りなどに参加し、那須町を盛り上げる一員でありたいと思います。

「当たり前」に気づく

また、『当たり前に気付いてほしい』とも言っていました。例えば、自然がきれいなのはだから、それを整備しているからだし、きれいな道を歩けるのも道

路を舗装している人がいるからです。だれかが周りの生活のために努力してくれていることを「当たり前」だと思ってしまうかもしれません。みんなの生活の当たり前を支えている高久さんらしい一言だと感じました。高久さんと高久組のみなさんは、このように那須町の生活の基盤をつくったり、魅力を磨いたりしてくれています。これからもみなさんの活躍を応援しています。

(文責10班)



株式会社 高久組
 〒329-3222 栃木県那須郡那須町寺子丙 1 番地
 TEL / 0287-72-0148
 HP takakugumi.jp

かぜの杜 まど花
 〒325-0301 栃木県那須郡那須町湯本 108
 TEL / 0287-73-8269
 HP kazenomori-madoka.com



高久組 HP



まど花 HP

建築工房 槐
長谷川 恭子 さん
 はせがわ きょうこ



やりたいことを
 見つける大切さ

好きなことを続ける

長谷川さんに今の仕事のやりがいについて聞きました。「弟子入りした時点ではできなかったことが、いつの間にか自然にできているとき」とのことでした。また、体力的にしんどかったり、自分の技術不足に落ち込んだりすることもありますが、結局1日中モノづくりをしながらられることは本当に楽しく恵まれたことだとも話していました。私たちの高校生活にも通ずる部分があり、イヤだとかツライとか感じることもあっても、

長 谷川恭子さんは、福島県いわき市で生まれ育ちました。4年前から那須で宮大工の弟子として仕事をしています。そんな長谷川さんをご紹介します。

長谷川さんは、学生のころからモノづくりに興味があり、高校卒業後建築科の学校に進学しました。卒業後は設計事務所に就職し、図面を描く仕事を始めます。しかし、無理をして体調を崩してしまい、設計事務所を退職し、家庭教師などの様々な仕事に就きました。そして、メインでやっていた家庭教師の仕事をしている中で、進路選択で困っている生徒の相談に乗りました。長谷川さんはその生徒さんに「好きなことをやったら？」とアドバイスしましたが、そのときに「私も好きなことであるモノづくりをもう一度やりたい」という気持ちが再燃し



ました。建築関連の仕事に戻ろうと考えたときに、ある那須町の行事で、建築工房「槐」の中島さんという方に出会いました。中島さんは宮大工で、現在は住宅中心の施工をしている方です。そんな中島さんに弟子入りをお願いし、4年前から宮大工としてモノづくりの仕事の再スタートを切りました。そしてそれを機に福島を離れ、那須町への移住を決意しました。

やりたいことや好きなことをやり通すことの大切さが伝わってきました。また、現在はある作家さんのアトリエをつくっているそうです。建物をつくっているときももちろん楽しいそうですが、出来上がっていく建物を見てお客様がワクワクしているのを見たり、休憩中にお客様と談笑したりしているときにも楽しさを感じるそうです。これからお客様が心から楽しめる「空間や居場所」というものを大切に、その人が熱中できる、夢中になれる空間づくりに取り組みたいそうです。自

分の意志で決め、自分の技術で建物や空間をつくっていきたいと意気込む長谷川さんがとてもかっこよく感じました。最後に、私たち那須高校生を含む若い世代に期待していることを伺いました。「心のブレーキを外し、やりたいことを見つけてやってみよう」。建築関連の仕事がずっと心残りで、それにもう一度挑戦した長谷川さんらしさがあふれる一言です。私たちもこんな夢中になれる何かを探し、そのために努力していきたいと思います。

(文責2班)



建築工房 槐

木のクセや特徴を活かすことと、体にも環境にもやさしい自然素材を使うことを心掛けながら手刻みによる伝統工法で物づくりをしています。

〒329-3222 栃木県那須郡那須町寺子丙 2644-19

HP kenchikukobo-enju.jimdofree.com

Instagram [kentikukoboenu](https://www.instagram.com/kentikukoboenu)



HP



Instagram

アワーズダイニング
濱口 淳子 さん
はまぐち じゅんこ

自然の恵みを
一皿に



濱 淳子さんは那須町高久にある「アワーズダイニング」というレストランを運営しています。濱口さんは徳島県出身です。徳島出身の濱口さんが那須でレストランを経営するまでの過程はどんなものだったのでしょうか。

濱口さんは高校時代、バンド活動に熱中していたそうです。クラスメイトとともにレディス・ロックバンドを組んでコンテストにも参加していました。バンド活動を辞めた後に、自分で生きていくことを考えたとき、どう仕事の選択をしていくのか、学校の先生に相談したそうです。その結果、就職した先は大手信販会社でした。

将来どうありたいか考えたとき、日々欠かせない「食」「健康」「暮らし」を大切にしたいと思い、信販会社を退職。そして、有機農



業を志していた現在のご主人と出会い、飲食業にたどり着きました。「食べる」ことは濱口さん自身が転職を決意したきっかけである「食」「健康」「暮らし」に直結しています。ここが現在の濱口さんのスタート地点です。

料理の道に入り、30代前半にご主人と一緒に徳島市内で「アワーズダイニング」を始めます。そこでの問題は土に還せば資源となる「生ごみ」を業者に廃棄してもらっていたことでした。いつか畑のできる自然のある場所でレストランを営みたい。建築もセルフビル



ドしてみたい。こうした思いが募るなかで那須の方と出会い、自然、温泉、おらかな人、那須は恵まれた場所だと感じ、移住しました。飲食業（アワーズダイニング）を初めて20年。日々メニューのバリエーションを変え、地域の方々から愛されるお店となって今日に至ります。

食を楽しんでもらいたい

濱口さんはレストランの料理を

通して、ご自身の考え方を表現しています。お店で出す野菜の多くは、自分たちで育てたものです。料理もオリジナル。オーガニックの食品やフェアトレードの品々、農薬を使っていない国産小麦を使った天然酵母のパン、合成添加物を加えていないお菓子や調味料……、沢山の商品の数々。濱口さんの食を楽しんでほしいという気持ちがあります。そこで、何よりも大切に行っていることは安全です。幼いころ体の弱かった濱口さんに、お母様が天然素材のご飯を作ってくれました。嬉しかったのと同時に、体に良いことを実感したそうです。

濱口さんが育てている野菜は、無農薬で草も取らず、自然農法で育てられています。加工食品や保存食も素材から手作りです。自然循環のなかで、地球を大切にしたい食の仕事をやっていきたい。この思いは、高校時代にバンドで協力しながら活動して友情を深めたことであったり、お母様の手作りの温かい食事であったり、有機農業へのご主人の志であったりなど、これまでの濱口さんの足跡からたどり着いたものだと思います。今度は濱口さんの思いが乗せられた「自然の恵みの一皿」を心からいただきたいと思っています。

（文責 14 班）



OURS DINING アワーズダイニング

〒325-0304 栃木県那須郡那須町高久5834-14

TEL / 0287-64-5573

HP oursdining.jp

oursdining



HP



Instagram

那須高原HERB's
浜津伸生 さん
 はまつのぶお



ハーブの可能性と
 魅力を発信する



あり、そこではハンドクリームや石鹸を自分で作ることもできます。浜津さんは年間50種類ほどのハーブを育てています。実際に浜津さんが作ったハーブティーも見ていただきました。中には、レモングラス、カモミール、レモンバーベナなど約10種類ほどの材料が入っていて、匂いを嗅いでみると、とても落ち

那須高原HERB'sという場所
 で働いている浜津伸生さん

は、ハーブを生産し、加工・販売をしています。浜津さんは、「那須高原HERB's」だけでなく、「那須町観光協会」と「那須町商工会」にも所属しています。その中で特に注力している仕事はハーブ作りで、自社農園で自然栽培に取り組んでいるそうです。収穫したハーブはハーブティーやハーブソルトに加工して、お店やWebショップで販売しています。また、都内のミシュランガイド三ツ星レストランをはじめフレンチレストラン、カフェなどに、ハーブティーを納品しています。

ハーブに関わるきっかけ

浜津さんが今の仕事に就かれたのは、初めてのハーブの香りに衝撃を受けたことがきっかけで、そこ

部活の経験が
 人生の基盤に

着く香りを通して、私たちの緊張もいつの間にか和らいでいました。浜津さんは、香りを頭の中でイメージしながら、さまざまにハーブを組み合わせていくことにやりがいを感じているそうです。

また、私たち高校生に向けても貴重なお話をいただきました。浜津さんは高校時代陸上部に所属されていて、そのときに得た経験が人生の基盤となっているそうです。普段の練習で20キロメートルも走り込んでいたというお話を伺った際にはとても驚きました。私たちも高校生活の中で、苦しい経験を乗り越えなければいけない場面があると思いますが、苦手なこ

とから目をそらさずに向き合ってみることが、卒業後の人生に繋がっていくのかもしれないと感じました。

私たちは今回のインタビューで地域の人と関わるという貴重な体験をさせて頂きました。最初のうちは、緊張してうまく話すことができませんでしたが、浜津さんが優しく丁寧に話をしてくれたおかげで私たちも緊張が解けて、楽しくインタビューすることができました。普段の学校生活の中では聞くことのできない話を聞くことができ、とても勉強になりました。

(文責:16班)



那須高原 HERB's

〒 325-0303 栃木県那須郡那須町高久乙 3589-3
 TEL / 0287-76-7315

HP n-park.jp
 Instagram nasukogenherbs



からハーブに関係する仕事をした
 いとの思いが募ったそうです。そ
 して、1994年の9月に那須
 町に移住し、27年間那須町でハー
 ブを栽培しています。これまで続
 けてこられたのは、常に楽しさが
 あるからこそ、とおっしゃっていま
 した。那須高原HERB'sではハー
 ブティー、ガーデニング、料理、美・
 健康すべてに対応しているそうで
 す。また体験教室というのものも

フィンランドの森
人見友規さん
ひとみ ともりのり



「自然を大切にしたい
日本で広めたい」を

物館など、ユニークなお店もあります。最大の特徴として、クリスマスになるとフィンランドのサンタクロース村から本物のサンタクロースを招き、握手会や撮影イベントを行っています。

様々な施設を多角的に経営するなかで、やりがいや思い入れも職種によって違うようでした。飲食店の経営でやりがいになっていることは、食事をしてくれたお客様が「おいしい」と言ってくれたときの嬉しさだと言っていました。薪ストーブ用の薪の販売については特に思い入れがあるようで、熱意のこもったお話をしてくださいました。カーボンニュートラルという考え方があります。薪は木からできており、木は光合成をします。薪になるまでに出した酸素の量と、薪として燃やした

人見友規さんは、那須町歴33年になる経営者です。

生まれも育ちも那須町で、大学生になるタイミングで建築学を学ぶために上京しました。大学卒業後、サラリーマンとして6年働いたあと、家業であった建築会社を継ぐために那須町に戻ってきました。サラリーマン時代は家の設計と営業に携わっていたようで、その時の経験が現在の仕事にも活かしているとのことでした。

フィンランドの文化を日本に

人見さんが経営している施設の一つに、『フィンランドの森』という施設があります。『フィンランドの森』は、その名前の通り、那須高原の森の中に作られたテーマパークです。中心となっているのは飲食店や雑貨屋、釣り堀など

の娯楽施設であり、広い敷地内で自然に囲まれながら様々な体験をすることができます。

もともと「自然を大切にしたい」というフィンランドの文化を日本にも広めたいという理念によって作られた施設であるため、カフェで提供される料理やシヨップで取り扱う雑貨類にはフィンランドのものを多く取り入れています。中にはハンモックカフェや薪ストーブ博



た際に排出される二酸化炭素の量は釣り合っているため、薪を燃やしても大気中の二酸化炭素の量は実質的には増えていないというものです。薪ストーブは環境に良く、より多くの人に広がってほしいとおっしゃっていました。

何にでも興味を持つ人に

那須町のいい点は知名度が高いところ、課題となるのはチャレンジ精神のある人が少ないといこ

ろだとのことでした。若い世代に期待することやこうあってほしいと思っていることについては、「何にでも興味を持ち、わからないところは自分から進んで調べるようにしてほしい」とおっしゃっていました。

豊かな自然の中で、北欧の空気を感しながら過ごせるフィンランドの森は、那須高原に多くある観光施設の中でも特別な場所です。特に冬には、薪ストーブならではの暖かみを感じることができます。気になる方は、是非一度訪れてみてはいかがでしょうかでしょう。

(文責 15 班)



フィンランドの森

〒325-0303 栃木県那須郡那須町高久乙 2730-7
TEL / 0287-78-0981

HP finlandnomori.net



HP

同和自動車
平山周一 さん
ひらやま しゅういち

黒田原の良さを 知ってもらいたい



この映画祭では、「次の世代につなぐまち・つなぐ未来」をテーマに掲げ、黒田原駅前にある建物を活用して地域交流を深めながら駅周辺の活性化を図っています。駅前商店街や地元学校などに協力を仰ぎ、若者や子育て世代が住み続けたい魅力あるまちづくりを目指しています。

中でも、ナスタルジック映画祭は特に注力されている活動であり、年に一度駅前の商店街で実施されてきて、今年で8年目になります。

平山さんは、様々な活動を地道に続けることで、いつかまた人で賑わい活気あふれる黒田原を取り戻したいと話してくださいました。平山さんのお話から、僕たちは強い信念を感じました。インタビュー後、FacebookなどSNSでその様子を拝見し、画像を見ただけで町の人が一体となっている様子が伝わってきました。いつかまた、この黒田原に居住者が増え、自分のお店や黒田原のお店のお客さんが増え、お店を作る人も増え、黒田原という町がにぎやかになるのが平山さんの夢であり目標だそうです。粘り強く黒田原活性化のために活動を続けられている平山さんは、僕たちの黒田原を支え続ける英雄だと感じました。



(文責19班)

最後に、高校生の僕たちに向けても貴重なアドバイスをいただきました。高校時代は、毎日朝・夕・土日のほとんどが部活動の練習漬けの毎日であり、大変だった分、沢山の友情や一つのことを成し遂げる団結力や粘り強さを学ばれたそうです。そしてその経験が今の自分につながっていると仰っていました。そして今も、粘り強く黒田原活性化のために活動を続けられています。僕たちも与えられた高校生活の中で、一つのことを成し遂げられる人間になれるよう頑張りたいと思いました。

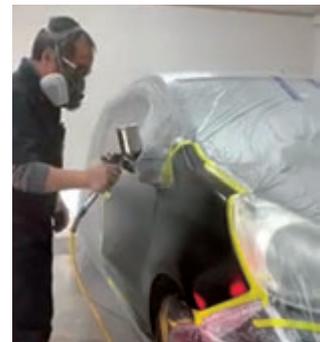
同和自動車

〒329-3222 栃木県那須郡那須町寺子 181-1
TEL / 0287-72-0266



平山さんは黒田原出身、そして黒田原在住です。また、当時活発だった吹奏楽部に入部するために那須高校に進学したため、私たちの大先輩でもあります。現在は家業である同和自動車という、黒田原の自動車工場の代表をしています。このように非常に黒田原と関わりが深い平山さんは、那須町のことをとても愛していて、那須高校のことをとても応援してくれています。そして、様々な方法で那須町を盛り上げようと努力している方です。

そんな平山さんに、那須町について聞いてみました。昔はとても賑やかだった黒田原の街。しかし、少子高齢化が進行しており、昔から行ってきた伝統的な恒例行事の後継人がいないことや、電車が1時間に1本しか走っていないこと、現在の黒田原駅前のシャッター街を見たときなどに、『自分の生まれ育った地域に自慢できるものって何があるんだろうか』と、悲しい想いを抱くことがあるそうです。そこで、地域が有名になれるものを形にしたい！と強く考えるようになったそうです。平山さんは、黒田原の良さをたくさんの人に知ってほしい！という強い思いから、さまざまな活動に取り組みられており、「ナスタルジック映画祭実行委員会」「なすっこ祭り実行委員会」「黒田原お囃子保存会」「黒田原駅前にぎわい商店街」「黒田原リヤカー屋台振興組合委員」など多くの団体に所属され、黒田原活性化のために尽力されています。





次に、町長というお仕事について伺いました。町長とは『町民のみなさんの安心安全を守り、快適な生活を送るためのかじ取りをする人』であり、わかりやすく例えると『那須町という家族の大黒柱』であるとのこと。さらに具体的に現在まちづくりで力を入れていることを聞きました。まずは人口減少の対策についてです。地元の人はもちろん、他

県の人に移住してくるなど、たくさんの方に那須町で暮らしてもらうためには、平山さんは子育て環境と教育が大切だといいます。実際、オムツの無料券の配布、医療費の免除などの支援が充実しています。次に自然や観光についてです。那須町は豊かな自然で有名ですが、中でも平山さんは那須御用邸の一部を解放されてきた「日光国立公園那須平成の森」について、上皇陛下のお気遣いがあったという背景や、ありのままの自然が残っているという神秘さなどからとても重要視しています。また、那須にあるにも関わらず名前に「日光」と入っており、「那須」を公園名に入れて欲しいと国に訴えたのも平山さんだそうです。たくさんの方に正しい情報とその重要性を知ってもらわなければならないという課題を感じていました。そういったことをひとつひとつ達成し、那須町を『日本の町にしたい』と語ってくれました。最後に、私たち若い世代に期待する

こと、那須町の魅力について伺いました。平山さんは『那須町に興味を持ってほしい』と言っていました。私たち高校生が高校卒業後にいろいろな場所で得る様々な経験をもとに、那須町に貢献してほしいのとです。そして、町の魅力については、ズバリ「人柄」だそうです。ときに優しく気遣いにあふれる町民性は、不器用だけど小さな絆を大切にしている素晴らしい人柄だとのことでした。私たちはまだまだ那須町について知らないことがたくさんあることに気がきました。そして、那須町民のみなさんと、日々家族のために努力している「大黒柱」を支え、応援していきたいと感じています。

(文責 24 班)



那須町役場

〒329-3292 栃木県那須郡那須町大字寺子丙3-13

TEL / 0287-72-6901 (代表)

HP town.nasu.lg.jp



HP



那須町町長
平山 幸宏 さん
ひらやま ゆきひろ

那須町のお父さん、
那須町を日本高原の町に

我々が那須町の町長、平山幸宏さんは、那須町生まれ、そして那須高校の卒業生です。私たちは、その人柄について、仕事について、そして大先輩として、様々なお話を聞いてきました。

まず、平山さんに学生だった頃の話を知ると、「成績優秀、スポーツ万能…その逆」と謙遜し、こやかに答えてくれました。緊張している私たちを和ませるユーモアたっぷりの回答に、平山さんの優しい人柄を感じました。また、将来の夢は「社長になること」「正義の味方として闘うこと」だったそうです。町のトップで、町民にとつての正義の味方でもある平山さんは、今まさに夢を叶えています。町長になったきっかけについても伺いました。当時は町役場や選挙などとはほど遠い存在だったようですが、町の選挙運動のお手伝

いに声がかかりました。内容は交通案内図の作成やその案内誘導などでしたが、町のためにひたむきに、一生懸命に取り組んでいた姿が評価され、議員にならないうと声をかけられました。熱心な性格の平山さんは議員になることを決意しましたが、初めは『自分が入る世界ではなかったのではないか』と感じたそうです。しかし、知らないことやできないことをひたむきに勉強しながら地域振興活動に励み、その姿を見た様々な人々から支援を受け、徐々に町長への道へと進んでいきました。何事にも熱心に、ひたむきに取り組む姿勢が周囲からの信頼を得たり、自分の夢をかなえたりするための大切な要素であることが伝わってきました。



「モンゴリアビレッジ テンゲル」の施設については、繁忙期にはお断りしなければならぬことがあるので施設を大きくしたい、とのことでした。夜に敷地内

り持っていて、厳しい環境の中でも力強く生きているそうです。日本人もモンゴル人から学ぶことがあると思いました。



モンゴリアビレッジ テンゲル
藤村舞 さん
ふじむら まい

モンゴルとの 架け橋に



モンゴルと那須町の架け橋となっている人物である、藤村舞さんについて紹介します。藤村さんは、テレビでモンゴルという国について知り、モンゴルの草原や生活環境、社会のシステムの違いに興味を持ったそうです。

そして現在藤村さんは、「モンゴリアビレッジ テンゲル」というモンゴルを再現し、モンゴルの文化体験をすることができ、宿泊施設で勤務しています。それだけでなく、那須町の学生を対象に、日本とモンゴルの交換ホームステイを行っています。

藤村さんは、モンゴルを初めて知る人が感動する場面に寄り添うことができ、喜んでいる場面や、ホームステイを通して子ども成長する姿を見られるところなどにやりがいを感じるそうです。

の森で焚き火をしながら星を見る体験などもできるそうです、ぜひ行ってみたいと思いました。

那須町についてもお話をさせていただきます。藤村さんにとって那須町の良い点は、自然や観光スポットが多く、年代に関わらず楽しむことができ、面白い人や面白い活動をしている人が多いところだそうです。また、那須高生を含む若い世代に期待することは何かと聞いてみると、地元の魅力を知って、那須町が発展できるようにしてほしい、やりがいを感じられるものを見つけて、失敗してもいいから若い人には挑戦してほしいと話していました。

私たちも含め、失敗することを恐

れる高校生が多くいるような気がするので、藤村さんの言葉を受け入れ、様々なことに挑戦したいと思いました。

そんな日本とモンゴルの架け橋となる藤村舞さんはこれから、も那須を盛り上げてくれる、那須町にとって欠かせない人となっています。

ぜひ、皆さんも那須にいながらモンゴルを感じられる「モンゴリアビレッジ テンゲル」に行ってみてください。

(文責 20 班)



インタビューの中で藤村さんは、モンゴルについてたくさんのお話を教えてくれました。日本とモンゴルの大きな違いとして、民族性の違いがあるそうです。日本人は相手の意見も聞きながら協力し合って生きていくことを大切にしている印象ですが、モンゴルの人は、自分の力で生きていくことを大切にしているそうです。だから、モンゴルの人は自分の意見をしっかりと

モンゴリアビレッジ テンゲル

〒325-0302 栃木県那須郡那須町高久丙1577-9
TEL / 0287-76-6114

HP tenger.jp
Instagram tenger1999



HP



Instagram



て、その悩みの坂を越えたときに大きな達成感を感じるとおっしゃっていました。つくった人の想いや気持ち、イメージを大切にしたり、依頼を細かく聞いていたりして、徹底してこだわっているそうです。益子さんは那須で作られている化粧品「月子」のデザインで知られています。月子のテーマは、「自然が豊かなところでヘチマをつくり、満月の日にヘチマの中の水をとる」というもので、また、30歳



想いや気持ち イメージを大切に

株式会社 Drifter
益子 悠紀 さん
まじり けいけい



益 子さんは那須町出身・在住で、デザインのお仕事をされています。また、その他にも大学の講師や音楽関係のお仕事にも携わっています。

デザインの仕事内容は、本の表紙、広告、洋服の柄、パッケージデザインを考えることです。益子さんにはデザインや絵、イラストの仕事をやろうと決めた理由がありました。それは、昔から絵を描くことが好きだったから、ものをつくるのが楽しかったからだそうです。幼稚園生ぐらいの小さいころから落書き程度の絵などをたくさん描いていた経験があり、小さい頃から好きなことを続けていることの大切さがわかりました。そういった好きなことを生かすために、ものをつくりたいデザインしたりすることを学ぶための大学に進学しました。大学時代は先

生に教えてもらうというより、自分たちで考えながら作業したり、学生同士で競い合いながら作品をつくりたいと思いました。



まず、現在のお仕事について伺いました。自分でつくったものをお店で見たとときや、自分でつくったものに対してのお客さんや購入者の反応を見たときにやりがいを感じるそうです。そして一番は、デザインなどの案で悩んでい

50歳くらいの方々に買っていただけのように上品なデザインを目指したそうです。とても素敵なデザインだと感じていたが、こういったエピソードから、益子さんのこだわりをとても強く感じました。

次に、那須町について伺いました。まず、いいところは、自然が豊かでリラックスでき、また、やさしい人や、自分自身で考えて行動している人が多いところ。一方で移住しやすい環境を作ること、すぐに住めるようなところが少ないなどの改善点も感じているそうです。

自分とは違う人を知る

次に、那須高校生を含む若い世代に対して期待していることを伺いました。世の中にはたく

さんの人がいるので、自分だけの価値観で決めるのではなく、いろいろな人、自分とは違う人のことをもっと知った方がいいということでした。たくさんの依頼を受け、真摯に向き合ってきた益子さんならではの言葉であると感じました。

インタビューはとても緊張しましたが、将来に関わる貴重なアドバイスや、デザインに関する話など、たくさんの方が聞け、とても貴重な体験でした。

(文責: 8班)



株式会社 Drifter

HP drfr.co.jp



HP

松おか
松岡美代子 さん
まつおか みよこ

こだわった食材で 那須の健康を支える



白 家で玄米と野菜のお店を
経営している松岡美代子さ
んは、那須町出身であり、那須
町との付き合いはすでに60年以上
となったそうです。旦那さんの肺
がんをきっかけに、病気の人も
安心して食べられるお店「松おか」
をオープンしました。

「松おか」には多くのお客さんが訪
れます。食に興味がある人、身
体のために来る人など相談も含め
て訪れる、リピーターの方が多い
そうです。お客さんの「おいしい」
「元気になった」という声が、松岡
さんのやりがいにつながっています。

食と体の関係

そんな松岡さんが食材を選ぶ上
で大切にしていることは、安全で
身体に良い野菜を選ぶことです。



保育園給食を30年間作り続けた
松岡さんの好きなメニューはけん
ちん汁だそうです。これまでの経
験から、今の給食を少しずつよ
くしていくには、いい食材を使い、
だしの素などを使わないというこ
とが必要だと考えていらっしやい
ます。また、若い世代の人たちに
対して、もっと食に興味を持って
ほしい、自分のやりたいことや目

標をみつめてほしいという期待
を持っています。

那須町を今よりも良くしていく
には、農産物の農薬の使用を
減らし、安心して食事のできる
お店を増やしていくことが必要
だとおっしゃっていました。那須
町には山や田んぼ、畑が多く、
空気もきれいなので、今後は値
段ではなく、質のいい安全なモ
ノを選んで食べてもらいたいと
いう思いから、様々な活動に取
り組んでいきたいそうです。

松岡さんは、和食は日本を代
表する料理で、世界一の健康食
だと考えているそうです。「ご飯
味噌汁、漬け物と、バランスの
良い食事をしていくことが大切
です。

松岡さんが営む「松おか」では、
タンポポの根を煎って作る「タ
ンポポコーヒー」、牡蠣を使わ
ないで作る「カキフライ」が人
気メニューです。タンポポコーヒ
ーは、身体を冷やさずに温めて

くれるので、妊婦さんにもおす
めです。また、カキフライに
は、マイタケや青のり、パン粉、
さらに山芋が入っているので、
おいしく食べながらも腸をきれ
いにすることができます。

「業ではなく食べ物で健康に」
を目標として、松岡さんはお店
の経営を続けています。いつも
誰かに寄り添って仕事をする松
岡さんの、今後の活動を応援し
ています。身体の健康を考えて
いる方は是非、行ってみてくだ
さい。

(文責17班)

和食は世界一の健康食

私たち高校生ができることは、
化学調味料の入っていないもの
など、身体によいものをきちん
と見分け、選んで食べていくこ
とだと思います。



松おか 発芽酵素玄米と野菜料理のお店
〒329-3222 栃木県那須郡那須町寺子丙161-3
TEL / 0287-72-1105



HP matsuoka-nasu.wixsite.com/matsuoka-nasu

HP



自転車 で 那須観光を世界へ

東京出身の山本さんにとって、
那須の山々を走ることは大変魅
力的でした。那須をロードバイ
クで走ることで那須を盛り上

株式会社ライドエクスペリエンス
山本 徹也 さん
やまもと てるや

自転車で世界を駆ける！



やらされる仕事より やりたい仕事

「やらされたい。ライドエクスペリ
エンスの仕事を通して、そのこ
とに尽力なさっています。那須
高原を颯爽と走る心地よさを
経験してもらいたいという思い
はもちろん、同時に自転車とい
う乗物から交通に対する意識
も高め、事故が起きないように
安全面にも配慮を怠りません。」

「やらされる仕事よりやりた
い」と山本さんは考えています。
「やらされる仕事よりやりた
い」と山本さんは考えています。
「やらされる仕事よりやりた
い」と山本さんは考えています。」

山本さんは世界50カ国以上を旅
しています。山本さんと世界と自
転車の関係はどんなものだったの
でしょうか。元々、山本さんは東
京で会社員をしていました。貿易
の会社をしており、海外は身近
なものでした。中でも、アフリカ
に行ったときに、竹製のロードバ
イクを見て、日本の人にも、こん
な自転車があるんだということを知
ってもらいたいという気持ちが
沸き起こったそうです。



「仕事」を若い人たちに見つけ
てほしいとのことでした。

那須町は自然豊かで素晴らしい
景色がずっと続きます。食べ物
も美味しく充実しています。一
方で、若い人たちがより住みや
すく感じられるような工夫も
必要がまだあるのではと考えて
います。山本さんはこれまで世
界中を回り、ブラジルやアマゾ
ンのジャングルに入ったり、アフ
リカのマサイ族にも会ったりし
ました。山本さんはこうした
見分の広さを活かし、ライドエ
クスペリエンスの活動を通して、
那須の魅力をたっぷり、日本
や世界の方々に発信しています。



(文責 21班)



株式会社ライドエクスペリエンス
〒329-3122 栃木県那須塩原市塩野崎 184-7
那須ガーデンアウトレット サウスエリア
TEL / 0287-74-5585

HP ride-experience.com
Instagram [bikedeepjapan](https://www.instagram.com/bikedeepjapan)



HP



Instagram



菓子工房くるみの森
吉野 早美 さん
よしの はやみ

那須町のケーキ職人!!



原料を提
供している
那須町の
生産者の
方々の笑顔
が吉野さ
んの原動

力となっています。
そんな吉野さんに那須町についていい点や課題点について聞いてみました。

那須町のいい点は「個性を持っている人がたくさんいて、あの道を究めることができる町」であることだそうです。実際、吉野さん自身も好きなことを仕事にし、またお菓子作りの道にひたむきな姿勢がとても感じられました。また、吉野さん



は旦那さんと自給自足の生活をしており、そういったチャレンジがしやすい環境でもあるのかなと感じました。

好きなことを持つ

一方で課題点は「若い人が少ない」ことです。私たちにも、「自分の夢や、やりたいことや好きなことをしっかり持って、自分のやりたいようにしてほしい」というメッセージをいただきました。素敵な人がたくさんいるこの町で、私たちのできることや、やりたいことを考えさせられました。

私 たちがインタビューさせていたいただいた吉野早美さんは、「菓子工房くるみの森」の店主です。埼玉県出身で、高校では3年間学園祭実行員をしていました。大学進学を機に上京し、その後東日本大震災の時に那須で仕事をする友人の手伝いをきっかけで那須へ移住することになりました。移住後は、旧那須町立朝日小学校跡地にできた「那須まちづくり広場」がお仕事の拠点です。

「那須まちづくり広場」は、幅広い世代、様々な文化が共生するコミュニティづくりを目指している施設です。例えば、児童の発達や高齢者の方の暮らしを支える施設、ケーキや焼き菓子を作っているカフェ、地産地消の野菜販売、ゲストハウスなどが複合しています。そして、給食室だったところがケーキ工房としてリフォームさ



れ、「菓子工房くるみの森」となりました。吉野さんは那須まちづくり広場で2年間、カフェでケーキを作ったり、一人暮らしの高齢者の方にお弁当を作ってお届けする配食サービスに携わったりし、現在は「菓子工房くるみの森」の店主を務めています。主な仕事は那須まちづくり広場内のカフェに卸すケーキや焼き菓子をやることです。お客様の笑顔だけでなく、

インタビューを通して、吉野さんは非常にきさくに私たちに接してくださいました。特に、旦那さんとのエピソードを教えてくださいました。旦那さんのいい点に「仲のいい夫婦が多いこと」を挙げていたり、私たちが楽しくインタビューを進められるように話してくださいました。また吉野さんの令和コソコソ話ができる日が待ち遠しいです！最後に、吉野さんからのメッセージを紹介します。「菓子工房くるみの森」では、家族のことを想いながら作っています。見た目がかわいく、とてもやさしい味がします。ぜひ食べてみてください。」

(文責 4班)



菓子工房 くるみの森

〒329-3225 栃木県那須郡那須町豊原丙1340
那須まちづくり広場内「カフェここ」で販売中

Instagram [kashikobo.kuruminomori](https://www.instagram.com/kashikobo.kuruminomori)



Instagram



高校魅力化 コーディネーターとして

人との出会いから

将来への道が模索できれば



那須高校魅力化コーディネーター

新川 夏澄

Kasumi Arakawa

「コーディネーターを務めて早1年が経ちます。子ども達には地域での体験活動を通して、対話し協力しながら地域づくりの担い手として活動できる能力を培ってほしい」と思い活動してきました。

那須高校のコーディネーターをしながら自分の高校時代を思い出すことがあります。親や先生に反抗ばかりしていた高校時代ですが、高3の夏に起こった「那須水害」でのボランティア活動で転機がありました。

全国从那須に集まったボランティアの大人達は私を一人前の大人として扱い、自分で考え行動することを促しました。絵が得意だった私はマップ作りや手描きの災害新聞の作成をしました。自分の特技で人の役に立つことをしたのはその時が初めてだったと思います。1ヶ月後日常に戻った私はアートの道へ進むことを決めています。

た。非日常の中での出会いは、私の知らない世界や価値観との出会いでもあり、もっと自分のスキルを高め、広い場所で自分を表現したいという欲求が生まれ大学でアートを専門的に学びました。

今地域では時代と共に生活スタイルや仕事のあり方も大きく変化しています。予測不可能な時代にこの人物図鑑を通して、地域に向き合う素敵な大人達との出会いの場を作りたいと考えました。私のように人との出会いから道が見えることもあります。大人達も自分自身を振り返ることになり、地域の子ども達に伝えたいことを整理することができると感じました。

これらは今すぐ結果が見える活動ではないのですが、人の心や社会を動かす力があると感じ、自分の出来る事でお役に立てればと思っています。

「ありがとう」の気持ちへ 那須高校の生徒よりみなさまへ

- ・ 那須湯本の今の状況をよく知ることができました。
- ・ 「リーダーとしての資質」の話が深く印象に残っています。
- ・ インタビューのおかげで地域の良さを知ることができました。
- ・ リズムの大切さや日常生活をつないでいく、音楽の楽しさを教えてくれました。
- ・ とても興味深いものばかりでした。特に自然のものでの染物、素晴らしいです。
- ・ 道具やコーヒー豆を持ってきて説明して下さい、とても分かりやすかったです。
- ・ インタビューでの教えを学校生活に生かします!いつか旅館に遊びに行きたいです。
- ・ 最初は緊張しましたが、人物図鑑やポスターも大変良いものができました。
- ・ 教えていただいた言葉を、2・3年生になったときに活かしていきたいです。
- ・ 普段はなかなかお話を伺うことができない方にお話をきけて良かったです。
- ・ プログラムのことが少しだけ分かりました。
- ・ 那須の自然について学び、那須の自然を守りたいと思うようになりました。
- ・ 普段なかなか聞けないような貴重なお話を聞くことができました。
- ・ パンフレットと共に建築会社のことがよく分かりました。
- ・ 自分に嘘をつかないことの大切さを忘れずに生活していきたいと思います。
- ・ 料理に対する情熱が伝わってきました。いつか機会があれば遊びに行きます。
- ・ ハーブの話を聞いていて、私たちもやってみたいと思いました。
- ・ 校内発表後、薪ストーブを欲しいと言っている人がいました!
- ・ 平山さんのさまざまな活動や黒田原のことについて教えていただきました。
- ・ これからも那須町を良くしてってもらいたいです!がんばってください!
- ・ モンゴルと那須の架け橋として、那須を発展させてほしいです。モンゴル行ってみたい!
- ・ 将来に関する貴重なアドバイスやデザインに関するお話を聞いて良かったです。
- ・ これまであまり考えたことのなかった健康食品について知ることができました。
- ・ さまざまなお話をお聞きすることができ、とても勉強になりました。
- ・ 終始楽しいインタビューで那須の魅力を再発見することができました。

『総合的な探究の時間』は、クラスの垣根を越えて学年で取り組みます。初めましての生徒同士で様々な活動を乗り越えるたび、少しずつコミュニケーション能力や主体性を身につけていきました。年度末に実施した「成果発表会」では、コロナ禍で外部の方々は招待できませんでしたが、先輩や先生方に「那須まち」で活躍する方々の魅力についてまとめ、発信することができました。

このような成長のきっかけを与えて下さったインタビュー講師の皆様、デザインチーム C A Z E S U N の皆様、新川コーディネーター、発刊までご協力いただいたすべての皆様にこの場を借りて深く感謝申し上げます。



那須に
素敵な仕事がある
ことを
知りました



他の人に
那須町の
良さを
伝えたいです



那須の
自然を
守りたいと
思いました



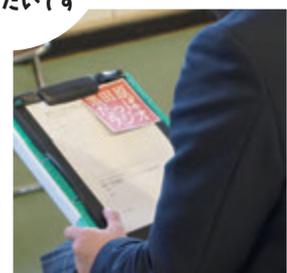
教えていただいた
ことを
これから
活かしたいです



那須の魅力
を再発見
できました



いつか
機会があれば
遊びに
行きたいです



那須まち人物図鑑

2022年3月31日発行

制作/発行 栃木県立那須高等学校
「未来を創る高校生地域連携・協働推進事業」の指定を受けて
「総合的な探究の時間」で製作されました

お問い合わせ 栃木県立那須高等学校
〒329-3215 栃木県那須郡那須町大字寺子乙3932-48
TEL 0287(72)0075
FAX 0287(72)6325
<http://www.tochigi-edu.ed.jp/nasu/>

写真 CAZESUN (佐藤 達夫)
デザイン CAZESUN (真柄 奈津子)

© Tochigikenritsu Nasu koutougakko all rights reserved.
本誌内容の無断転記・記載・複写を禁じます。

